

別表第1  
(表面)

鉄筋コンクリート造の建物の耐力度調査票

IV 学校種別 V 整理番号  
小学校

I 調査学校	都道府県名	設置者名	学校名	学校調査番号	調査期間	令和7年8月18日～令和7年8月20日			
	<b>校舎棟 耐力度点数の算出</b>								
II 調査建物	建物区分	棟番号	階数	面積	建物の経過年数		被災歴	補修歴	
	校舎		3	一階面積	建築年月	1990年	長寿命化年月		
				延べ面積	経過年数	35年	経過年数		
				7.164 m <sup>2</sup>					
								平成	
III 結果 点数									
A 構造耐力								耐力度	
100								(A) × (B) × (C)	
B 健全度								60	
C 立地条件								5,520	
0.92								点	

A 構造耐力	①	(a)	階	方向	構造耐震指標 I <sub>s</sub>	経年指標 T	q <sub>i</sub> = (I <sub>s</sub> /T) 0.7	鉄骨定着部の係数 α	q = q <sub>X</sub> × q <sub>Y</sub> × α	判別式		評点	評点合計	
										1.0 ≤ q	1.0			
			0.5 < q < 1.0		直線補間						⑦	(⑦ × 50)		
			q ≤ 0.5		0.3									
	(b)	コンクリート 圧縮強度 k	試験区分	壁・梁 1	壁・梁 2	壁・梁 3	平均値 F <sub>c</sub>	k = F <sub>c</sub> /20	判別式		①	評点	評点合計	
				31.3	36.9	39.5	35.9	1.80	1.0 ≤ k	1.0				0.5 < k < 1.0
		コア試験		31.3	36.9	39.5	35.9	1.80	判別式				⑧	(⑧ × 30)
B 耐力	②	層間変形角 θ	階	方向	構造耐震指標 I <sub>s</sub>	靱性指標 F <sub>u</sub>	Fr = F <sub>u</sub> × (0.7 / (I <sub>s</sub> /T))	θ	θの最大値	判別式		評点	評点合計	
										θ ≤ 1/200	1.0			
										1/200 < θ < 1/120	直線補間			
		1/120 ≤ θ		0.5										
C 耐力	③	基礎構造 β	種別指数 u		基礎の被害予測に関する指数 p		β = u × p		判別式		評点	評点合計		
			木杭	0.8	敷地地盤で液状化が予想される	0.8	1.0 ≤ β	1.0						
			RC杭	0.9	杭基礎でアスペクト比が2.5以上の建物	0.9	0.5 < β < 1.0	直線補間						
		その他		1.0		1.0		判別式				⑨	(⑨ × 30)	
D 耐力	④	地震による被災履歴 E	過去に経験した最大の被災度				無被害・被災無し		判別式		評点	評点合計		
			軽微	小破	中破	大破	1.0							

註) 鉄筋コンクリート造架構の上に鉄骨屋根を載せた屋内運動場(Rタイプ)では、鉄骨屋根のRC定着部について検討する。①保有耐力の「鉄骨定着部の係数、α」欄には検討結果の比を、( )内は最小値、又は、平均値を記載して、係数、αの算出根拠を示すこと。

註) 屋内運動場で、β算出時に一方向地中梁による低減係数0.75を考慮した場合には、「□地中梁による低減」にチェックすること。

B 健全度	①	経年変化 T	経過年数 t	判別式(建築時からの経過年数)	経過年数 t <sub>2</sub>	判別式(長寿命化改良後の経過年数)	評点	評点合計			
			35年	T=(40-t)/40 = 0		T=(30-t <sub>2</sub> )/40 =	⑦ 0.00	① 0.00			
	②	鉄筋腐食状況 F	柱		梁		グレード最低値 F		評点		
			部分的に点食を認める		部分的に点食を認める		0.8				
			グレード	1.0	0.8	0.5	1.0	0.8		0.5	
	③	(a)	コンクリート中性化深さ等及び鉄筋かぶり厚さ a	部位	柱1	梁1	柱2	梁2	平均値 a	判別式	評点
				中性化深さ			5.0	3.0	4.0	a ≤ 1.5cm	1.0
		3cm ≤ a		0.5							
	(b)	鉄筋かぶり厚さ b	部位	柱頭	柱脚	梁1	梁2	平均値 b	判別式	評点	
			かぶり厚さ					3.0以上	3cm ≤ b	1.0	1.5cm < b < 3cm
		b ≤ 1.5cm		0.5							
④	躯体の状態 D	部位	柱	梁	壁	床	グレード最低値 D	評点			
		状況	0.3mm未満	0.3mm未満	0.3mm未満	0.3mm未満	0.5	⑧ 0.5	⑨ (⑧ × 20)		
		グレード		1.0		0.8		0.5		10.0	
⑤	不同沈下量 φ	階	相対沈下量 ε	スパン L	φ = ε / L	φの最大値	判別式		評点		
							φ ≤ 1/500	1.0			
		1/500 < φ < 1/200		直線補間							
		1/200 ≤ φ		0.5							
⑥	コンクリート圧縮強度 k	* 同一階6本以上のコア圧縮強度の平均値が13.5N/mm <sup>2</sup> 以下の場合に適用						判別式		評点	
		壁・梁 1	壁・梁 2	壁・梁 3	壁・梁 4	壁・梁 5	壁・梁 6	平均値 σ	13.5 ≤ σ		1.0
		10 < σ < 13.5		直線補間							
		σ ≤ 10		0.8							
⑦	火災による疲弊度 S	程度	構造体変質	非構造材全焼	非構造材半焼	煙害程度	当該階の床面積 S <sub>0</sub>	被災率 S = S <sub>i</sub> /S <sub>0</sub>	判別式	評点	
		被災床面積 S <sub>1</sub>	S <sub>2</sub>	S <sub>3</sub>	S <sub>4</sub>		S = 0	1.0	0 < S < 1	直線補間	
		S = S <sub>1</sub> + S <sub>2</sub> × 0.75 + S <sub>3</sub> × 0.5 + S <sub>4</sub> × 0.25 = 0									

註) 材料試験により使用骨材の塩化物量が0.1%を超えることを確認した場合、③中性化深さの「平均値a」欄の( )内に塩化物量を記入する。この場合、(オ)の評点は中性化試験結果によらず0.5に読替える。

C 立地条件	① 地震地域係数	② 地盤種別	③ 敷地条件	④ 積雪寒冷地域	⑤ 海岸からの距離	評点	評点合計					
	四種地域	1.0	一種地盤	1.0	平坦地	1.0	その他地域	1.0	海岸から8kmを超える	1.0	①+②+③+④+⑤	
	三種地域	0.9	二種地盤	0.9	崖地	0.9	二級積雪寒冷地域	0.9	海岸から8km以内	0.9	5	
	二種地域	0.85	三種地盤	0.8	局所的な高台	0.9	一級積雪寒冷地域	0.8	海岸から5km以内	0.8	5	
= 0.9 + 0.9 + 1.0 + 0.8 + 1.0											⑥	0.92
= 0.92												